

受験番号
021

令和7年度 学校推薦型選抜 II 入学試験問題

(一般枠、みらい医療枠)

小論文 (60分)

熊本大学医学部医学科

(注意事項)

1. 試験問題は、試験開始の合図があるまで開かないこと。
2. 試験問題は、表紙及び空白ページを除いて1ページである。
別途、解答紙及び下書き用紙を2枚ずつ配付する。
3. 試験問題、解答紙及び下書き用紙の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
4. 試験開始後、試験問題、解答紙及び下書き用紙の所定欄に受験番号を必ず記入すること。
5. 解答は、解答紙の指定された箇所に記入すること。
6. 解答で指定する所定の文字数について、句読点（「、」「。」）は、1文字として扱う。
7. 試験問題、解答紙及び下書き用紙は、持ち帰ってはならない。

以下の小論文を作成した友人から、説得力のある文章に改善してほしいと頼まれた。友人の主張が読者により伝わるように、タイトルや構成、表現を含めて全体を見直し、新たな論点を加えずに、論理的で客観性のある小論文に改変しなさい (800 字以内)。

「医師の偏在対策について」

日本の医師の総数は過去最多を更新。いっぽう、地方では医師不足が深刻であり、十分な医療サービスの提供が困難な地域も少なくないが、効果的な対策はまだ確立していない現状。しかも、都市部への医師がびっくりするほど集中しており、労働環境が過酷な診療科は、医師の確保が困難であるなど、日本の医療の医師の需給バランスの不均衡や地域・診療科偏在の課題に直面しているが、効果的な対策に関してまだ確立していない現状にあり、国や自治体についても、医師の地域や診療科の偏在の是正に向けた施策を模索している。

都市部への医師の集中と、診療科によっては慢性的な人手不足の発生とで、こうした医師の偏在が解消されない限り、医師の増員だけでは日本全体で質の高い医療体制を実現することは難しいため、このような課題への解決策として、近年注目されているのが AI 技術を活用した「医療デジタルツイン」の開発である。

この技術により、患者の状態を精密に予測し、医師の最適な治療方針決定も支援したりすることが期待され、各地域の医療ニーズを正確に把握し、医療資源が効果的に配置されることが期待され、医師が不足する地域でも高度な医療を遠隔で提供できる可能性が広がったりすることも期待されるため、とにかく国や自治体は、偏在の是正に向けた施策を模索している。ちなみに、医療デジタルツインとは、医療に関する膨大かつ多様なデータを収集・分析し、仮想空間に現実の状況を再現することで、シミュレーションや最適化を実現する技術である。

医師の需給バランスを最適化し、偏在を解消していくためには、こうした AI やデジタルツインの導入が鍵となる可能性がある。これらの先進技術を活用することにより、地域格差や診療科格差が縮小し、日本全体で高水準の医療提供体制が実現されることが期待される。(863 字)